

外国人のH I V受療状況と診療体制に関する調査

「拠点病院（第1次）調査」

ご協力のお願い

当研究班では、外国人に対する円滑なH I V診療を支援するための方策の検討を行っております。従来より、外国人診療において言語や経済的な障壁などの課題があることが指摘されております。これに加え、近年、日本でH I V医療を必要とする外国人の動向には国籍や性別のほか、さまざまな変化が生じていることが指摘されております。しかし、現在の届出形式では状況の把握に限界があります。

そこで私たち研究班では、外国人の受療状況と診療体制の現状把握を行うことで必要な施策の検討に役立てて参りたいと考えております。ご多忙中のところ大変恐縮ですが以下の質問票にご回答の上、同封の封筒にて下記の研究班事務局までご送付いただけますようお願い申し上げます。

ご回答頂いた結果につきましては、病院の種類や地域性、機能などの変数によって集計を行ったうえで医療機関の対応状況の公表を行います。したがって、各病院の個別の対応状況について公表することはありません。

なお、本調査において「医療通訳」に関する設問が複数あります。ここで用いる「医療通訳」とは、守秘や通訳技術など医療現場での通訳をするための何らかの研修を受けているものを指しており、資格や認証の有無を問いません。

また、本調査（「拠点病院＜第1次＞調査」）にご回答頂いた医療機関の中から、外国人H I V医療実績が豊富な医療機関を対象に、受診者の初診時CD4と属性の関係などを検討する＜第2次調査＞「拠点病院における外国人事例調査」を計画しております。これら第2次調査へのご協力をお願いする医療機関には、改めてその旨ご連絡を申し上げます。その際にも、なにとぞ宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業

HIV検査と医療へのアクセス向上に資する多言語対応モデルの構築に関する研究

研究代表者 北島 勉（杏林大学教授）

研究分担者 沢田 貴志（港町診療所所長）

この件に関するお問い合わせ先：

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1

杏林大学総合政策学部 北島 勉

TEL 0422-47-8000 E-mail:kitajima@ks.kyorin-u.ac.jp

以下の質問に対し、あてはまるものに○をつけ、また空欄には該当する内容を記入してお答えください。

最初に貴院のプロフィールと、この調査票にご回答くださる方についてお伺いします。

1. 貴院は、つぎのうちどのタイプの病院にあてはまりますか。あてはまるもの1つに○をつけ、また空欄には該当する内容を記入してお答えください。

a. ブロック拠点病院 b. 中核拠点病院 c. 拠点病院 d. その他 (_____)

2. 貴院でのH I V診療実績についてお伺いします。本調査票記入時点において、貴院で継続的に診療を受けているH I V陽性患者の概数を以下から1つに○をつけてお答えください。

注：概数で結構ですので、新たに集計する必要はありません。

a. 現在把握しているH I V陽性の通院患者はいない。 b. 不明 c. 100人以上
d. 99~30人程度 e. 29~10人程度 f. 9~1人程度

3. 本調査票にご回答いただく方の所属施設名、役職名、お名前のご記載をお願いいたします。

1) 施設名 _____ 2) 役職名 _____ 3) ご氏名 _____

つぎに、貴院での外国人に対するH I V診療体制についてお伺いします。

4. 貴院にH I V陽性の外国人が紹介されて受診する場合、現在、受け入れに困難があると感じられますか。つぎのうち、あてはまるもの1つに○をつけてお答えください。

a. H I V陽性の外国人の受け入れに、困難は感じない。 → 6.へお進み下さい。
b. H I V陽性の外国人の受け入れに、やや困難を感じる。
c. H I V陽性の外国人の受け入れに、大い困難を感じる。

5. 上記の設問で**b. c. とお答えになった方**にお伺いします。H I V陽性外国人の受け入れに困難があると考えられたのはどのような点でしょうか。あてはまるものすべてに○を、またその中で最も困難と思われるものには◎をつけ、空欄には該当する内容を記入してお答えください。

a. 言葉の対応が難しいから。
b. 医療費の支払いなどに困難が予測されるから。
c. 生活背景の把握に困難があるから。
d. 文化的背景などの理解が難しいから。
e. その他 (具体的に: _____)

6. 貴院では現在、日本語が不自由であるが英語での会話が十分可能な外国人のH I V診療を引き受けることは可能でしょうか。この場合、一週間前に受診の相談があり、一定の準備期間があったと想定して、以下のあてはまるもの1つに○をつけてお答えください。

- a. 日本語が不自由だが英語で会話が十分可能な外国人のH I V診療の受入れは、問題がない。
- b. 日本語が不自由だが英語で会話が十分可能な外国人のH I V診療の受入れは、ほとんど問題がない。
- c. 日本語が不自由だが英語で会話が十分可能な外国人のH I V診療の受入れは、やや問題がある。
- d. 日本語が不自由だが英語で会話が十分可能な外国人のH I V診療の受入れは、大いに問題がある。

7. つぎに今度は、貴院では現在、日本語も英語も不自由な外国人のH I V診療を引き受けることは可能でしょうか。この場合も、一週間前に受診の相談があり、一定の準備期間があったと想定して、以下のあてはまるもの1つに○をつけてお答えください。

- a. 日本語も英語も不自由な外国人のH I V診療の受入れは、問題がない。
- b. 日本語も英語も不自由な外国人のH I V診療の受入れは、ほとんど問題がない。
- c. 日本語も英語も不自由な外国人のH I V診療の受入れは、やや問題がある。
- d. 日本語も英語も不自由な外国人のH I V診療の受入れは、大いに問題がある。

8. 貴院には現在、診療する際に医療通訳を利用するための何らかの制度がありますか。以下のあてはまるものすべてに○をつけ、また空欄には該当する内容を記入してお答えください。

- a. 医療通訳を利用するための制度はない。
- b. 貴院が直接雇用する（常勤・非常勤）の医療通訳がいる。（対応言語名：_____）
- c. 院内の外国語での対応が可能な職員に頼んでいる。（対応言語名：_____）
- d. 外部の団体と契約し医療通訳の派遣を依頼することが可能である。
対応言語名（_____） 医療通訳派遣団体名（_____）
- e. 外部から医療通訳を招聘した際に謝礼を支払うための財源がある
- f. 遠隔通訳（電話やタブレットなど）を提供する事業者と契約をしている。
- g. その他（具体的に：_____）

9. 貴院では、外国人の療養支援について医療ソーシャルワーカーがどの程度役割を果たしていますか。以下のあてはまるもの1つに○をつけ、空欄には該当する内容を記入してお答えください。

- a. 外国人の療養支援についてしばしば医療ソーシャルワーカーが重要な役割を担っている。
- b. 上記には該当しないが外国人の療養支援については医療ソーシャルワーカーに相談できる。
- c. 外国人の療養支援について医療ソーシャルワーカーに相談することはまれである。
- d. 外国人の療養支援について医療ソーシャルワーカーに相談したことはない。

ここから先は、貴院でのH I V陽性外国人の診療状況についてお尋ねします。

10. 過去6年間(平成25年4月1日～平成31年3月31日)に貴院を受診(受検)した新規H I V陽性受診者の中で、外国人はいましたでしょうか。なお、この場合、他の医療機関で既にH I Vに関する医療を受け、転院してきた場合は除いてお答えください。

- a. いいえ(過去6年の新規H I V陽性受診者に外国人はいない。) →12. にお進みください。
- b. はい(過去6年の新規H I V陽性受診者の中に外国人がいた。) →11. にお進みください。

11. 過去6年間(平成25年4月1日～平成31年3月31日)に貴院を新規に受診(受検)したH I V陽性外国人の国籍別・性別人数を下の表の内に記入してお答えください。表内に該当する国名がない場合は、お手数ながら右表の空欄に具体的な国名およびその人数を記入してお答えください。

国籍	男性(人)	女性(人)
中国		
ブラジル		
ペルー		
フィリピン		
タイ		
ベトナム		

国籍	男性(人)	女性(人)

12. 貴院でのH I V診療のなかで、日本語も英語も不自由な外国人の受診があった際、どのように対応されましたか。ここ6年間の対応で該当するものすべてに○を、またその中で最も頻繁に行われたと思われるものには◎をつけ、空欄には該当する内容を記入してお答えください。

- a. 日本語も英語も不自由な外国人の診療は過去6年間経験していない。
- b. 日本語も英語も不自由な外国人の受診には院内の訓練された医療通訳の手配を行った。
→ その際の言語は何語でしたか。(言語名: _____)
- c. 日本語も英語も不自由な外国人の受診には、外部の通訳者の派遣を手配した。
→ その際の言語は何語でしたか。また、その通訳の派遣団体はどこでしたか。
(言語名: _____) (通訳派遣団体名: _____)
- d. 外部の遠隔通訳事業者に依頼した。→その場合の言語と事業者名をご記載ください。
(言語名: _____) (事業者名: _____)
- e. 受診者の職場関係者が通訳を担った。(言語名: _____)
- f. 受診者の知人や家族が通訳を担った。(言語名: _____)
- g. グーグル、ポケトーク、ボイストラなど翻訳・通訳アプリを利用した(アプリ名: _____)
- h. 上記のいずれの対応もできなかった。言語名: _____
- i. その他の対応法を実践された場合は以下に具体的にご記入ください
(_____)

13. 貴院でのこれまでのH I V診療の中で、以下のような外国人特有の困難を抱えた受診者を経験されたことはありますか。ここ6年間の実際の診療の中で、あてはまるものすべてに○をつけ、空欄には該当する内容を記入してお答えください。

- a. 言語の障壁からコミュニケーションが深まらず診療に支障が生じた。
- b. 健康保険や自立支援医療の適応ができず医療費の支払いに困難があった
- c. 出身国の医療情報の取得や出身国側の医療機関への橋渡しに困難があった。
- d. 文化・習慣の違いで困難を感じた
- e. 帰国時の搬送のため航空会社等との調整に関する困難があった。
- i. その他（具体的に：_____）
- j. 上記のいずれも経験していない。

14. 死亡や帰国以外の予期せぬ受療の中断は、外国人の方が日本人より多いと感じられているでしょうか。この6年間の診療を通じた印象で結構ですでお答えください。

- a. 死亡や帰国以外の予期せぬ受療の中断は、外国人の方が日本人より多いと感じている。
- b. 死亡や帰国以外の予期せぬ受療の中断は、外国人と日本人で変わらないと感じている。
- c. 死亡や帰国以外の予期せぬ受療の中断は、外国人より日本人の方が多と感じている。
- d. 外国人の受診が少なく判断できない。

15. 拠点病院の外国人診療を支援するためには以下のうち、どのような情報提供が必要だと思われるか。貴院でのご経験をもとにあてはまるものすべてに○を、またその中で最も必要だと思われるものには◎をつけ、空欄には該当する内容を記入してお答えください。

- a. 医療通訳を確保するための方法についての情報
- b. 医療費の支払いに関わる社会制度の情報
- c. 外国人の文化や食生活などの情報
- d. 出身国の医療の状況についての情報
- e. その他(具体的に：_____)

16. 今後貴院が外国人のH I V診療を行っていくうえで院外（行政・NPO・研究班など）からどのような支援が必要であると考えられますか。ご自由にご記載ください。

ご多忙中、ご協力どうもありがとうございました。

なお、2014年にまとめられた全国調査の結果は以下に掲載されWebでも閲覧可能です。ご参考まで。

エイズ診療拠点病院全国調査からみた外国人の受療動向と診療体制に関する検討

日本エイズ学会誌 18 : 230-239, 2016